

第3号様式（第7条関係）

平成28年12月1日

開成町議会議長 茅沼隆文様

開成町議会議員 菊川敬人 ㊟  
(代表)

派遣成果報告書

派遣の区分	<input type="checkbox"/> 委員会派遣（_____委員会） <input checked="" type="checkbox"/> 議員（複数） <input type="checkbox"/> 議員（単独）
目的 (調査事項又は 研修項目)	「平成28年度議員県外行政視察」 ①・「えき近夕市の取り組みについて」 ・「中心市街地への出店に関する支援について」 ②・エコタウン事業について
目的地	①名称等：富山県高岡市 住所：富山県高岡市広小路7-50 ②名称等：富山県富山市 住所：富山県富山市新桜町7-38
期日(期間)	平成28年11月1日（～平成28年11月2日）
視察又は 研修の成果	別紙のとおり

## 神奈川県開成町議会視察研修会出席者名簿

役 職	議員名	所属政党	備考
議 長	茅 沼 隆 文	無所属	
副 議 長	菊 川 敬 人	無所属	代表
議 員	佐々木昇	無所属	
議 員	山 田 貴 弘	無所属	
議 員	湯 川 洋 治	無所属	
議 員	前田せつよ	公明党	
議 員	石 田 史 行	無所属	
議 員	吉 田 敏 郎	無所属	
議 員	下 山 千 津 子	無所属	
議 員	和 田 繁 雄	無所属	
議 員	井 上 三 史	無所属	
議 員	星 野 洋 一	無所属	

### 随 行

議会事務局長	小玉 直樹
--------	-------

## 県外視察成果報告書

代表幹事 菊川敬人

1. 視察先 富山県高岡市役所（高岡ステーションビル会議室）

期日 平成 28 年 11 月 1 日

2. 視察先 富山県富山市役所（エコタウン）

期日 平成 28 年 11 月 2 日

### 「成果報告」

#### 1. 中心市街地賑わい創出開業等支援事業

富山県高岡市が取り組む、開業支援制度は、中心市街地活性化計画に掲げた、中心商店街の空き店舗の減少を図るため補助制度を設け、開業支援を行っている。平成 19 年に国の認可を受け開始されたものである。昼間営業を行う店舗・オフィス等の出店・改装、大家に対して助成を行っている。

#### 支援の内容

支援対象	改装費	家賃	
出店者	改装費の1/2	1/3	ただし補助額に上限あり
生鮮店舗	改装費の1/2	1/2	
大家・自己所有	改装費の1/2	1/2	
10年以上営業店 リニューアル	リニューアル費1/2		

- ・支援を受けたら、2～3年以上継続することが条件となる。
- ・空き店舗の活用は、初めて出店を志す人が多いようである。

	H21	H22	H23	H24	H25H	H26	H27
家賃	13	11	14	15	6	40	11
店舗改装・改修	8	8	8	6		17	5
店舗・土地取得		2		1	1		
リニューアル		1			1	1	1

平成 26 年に駅ビルと地下街がオープンしたことで支援件数が増えた。

#### 2. えき近夕市の取り組み

周辺住民のニーズに応え、地産地消の推進と駅周辺の賑わいを創出する目的で、平成17年に高岡駅地下街で試行的に実施をされた。その後平成24年ステーションビルの改築に伴い、駅の通路を活用して10店舗が野菜・果物・お菓子などを週2回（火・金14時～16時）販売している。

市は、実行委員会形式（えき近夕市実行委員会）で全ての店舗が会員となり実施されている。また、月2回開催される朝市では、約50店舗が出店して賑わっているそうである。

年間を通じ高齢者が作った作物を買ってもらい、地元の人が作ったものを食べる。このことで高齢者の生きがいとなっているようだ。

市を継続するポイントとして、地元商工会とは別に実施していた。出店者の中に中心的になる人材がいるようである。

以上の視察で感じ取れることは、中心商店街に空き店舗を作らないため支援を行っていること。中心部に特化しているが、出店を志す者にとっては力強く感じられるように感じた。

また、夕市については、高齢者が率先して、自分で作ったものをお客に対し会話をしながら買ってもらう。自らがそうした販売の場所作りを行い実践する楽しみが見受けられた。

### 3. 富山市エコタウン

富山市が進めるエコタウンは、平成14年5月にエコタウンプランの承認を受け、市内に18ha程度の「エコタウン産業団地」を設けている。一見廃棄物を取り扱う場所とはかけ離れた、市の中心地から近い住宅地と混在した場所であった。

ここは、地域内での循環を優先した取り組みを推進し、市民の活動を活かした、人と換気用に優しい都市の実現を目指している。そして、素材の段階的再利用と廃棄物エネルギーの有効活用の推進を図っている。事業概要は、廃プラスチックリサイクルとして、マテリアルリサイクル及び廃プラの油化。

生ゴミ及び剪定枝リサイクルとして、メタン発酵処理、堆肥化。

難処理繊維及び廃合成ゴムリサイクルとして、固形燃料化・燃料用ゴムチップ化。

その他、全事業が展開されていて、食料クズ、木質系クズ、プラスチック系クズ等を再利用するための事業であった。

派遣成果報告 富山県高岡市 平成28年11月1日(火)

「えき近夕市の取り組みについて」

「中心市街地への出店に関する支援について」

富山県北西部の市で富山県第2の都市でもあり、県西部の中心都市である。総人口174,477人(2016年9月末)、面積209.57km<sup>2</sup>です。東海北陸自動車道と能越自動車道が整備、新しい交通軸には北陸新幹線が開業(平成27年3月)、また、状木富山港の総合的拠点港の選定などを機に、飛越能地域の玄関口、環日本海沿岸地域における交通拠点都市である。

平成26年3月に高岡駅周辺整備事業が完成し、この事業に合わせ高岡ステーションビル及び高岡駅地下街がリニューアルされたことにより、高岡駅改札口から高岡ステーションビルやウイング・ウイング高岡へ人口デッキを通行する人の流れがあります。

えき近夕市についてはJR高岡駅南北自由通路「万葉ロード」において、周辺住民の消費者ニーズに応え、中心市街地の賑わい創出と地産地消の推進を図るため、野菜や果物等を週2回販売している。

朝市でない夕市であること、また自由な参加方法、利便性の高い場所である点が魅力的である。近隣地域の高齢者にも発信し、発展を望んでいる。高岡駅近くの買物難民と言われる住民と農家等との接点を大事にした取り組みで、単なる農産物の売上を超える効果を生み出しているよう目指している。

高岡市は、平成27年3月29日以降、認定された基本計画に基づき「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」を目指して各事業を実施、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高めるとともに、中心商店街の魅力向上を図り、中心市街地の賑わい創出、交流人口の拡大を図っている。

(中心市街地及び観光地で店舗等の新規開業や出店を可能とする店舗の改修、所得を行う大家等に対し市が助成を行っている。)

開成町議会議員 山田 貴弘

エコタウン事業とは、「ゼロミッション構想」(ある産業から出る全ての廃棄物を新たな他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを指すもの)を基軸に、地域の振興を図りながら、環境と調和したまちづくりを推進する事業である。

エコタウン制度は、地方公共団体が地域の特性に応じたエコタウンプラン(環境と調和したまちづくり計画)を策定し、国の承認を受けることで、国から総合的・多面的な支援を受けることができる。富山市は、平成14年5月に経済産業省と環境省から共同で承認された。

市内に18ha程度の「エコタウン産業団地」を設け、現在は7つの事業(各事業者)を行っている。各事業と概要は次のとおりである。

1. ハイブリッド型プラスチックリサイクル事業
  - ・ 廃プラスチックのマテリアルリサイクル
  - ・ 廃プラスチックの油化
2. 木質系廃棄物リサイクル事業
  - ・ 木質系廃棄物の炭化処理
3. 生ごみ及び剪定枝リサイクル事業
  - ・ 生ごみのメタン発酵処理
  - ・ 剪定枝の堆肥化
4. 自動車リサイクル事業
  - ・ 自動車を解体し、部品をリユース
  - ・ シュレッダーレス化による自動車リサイクル
5. 難処理繊維・混合廃プラスチックリサイクル事業及び廃合成ゴムリサイクル事業
  - ・ 繊維廃棄物や廃プラスチックの固形燃料化
  - ・ 廃タイヤ等をチップ化処理
  - ・ カラーゴムチップや燃料用ゴムチップの製造
6. 廃食用油リサイクル事業
  - ・ 廃食用油をディーゼルエンジン燃料化
7. 廃棄物エネルギーセンター事業
  - ・ 廃棄物焼却による熱エネルギーを利用した発電

各事業施設での廃棄物の処理方法やリサイクル製品の用途などは様々であり、それぞれの事業者の取り組みが把握でき有意義な視察であった。

佐々木 昇 議員

エコタウン事業とは、「ゼロミッション構想」（ある産業から出る全ての廃棄物を新たな他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを旨とするもの）を基軸に、地域の振興を図りながら、環境と調和したまちづくりを推進する事業である。

エコタウン制度は、地方公共団体が地域の特性に応じたエコタウンプラン（環境と調和したまちづくり計画）を策定し、国の承認を受けることで、国から総合的・多面的な支援を受けることができる。富山市は、平成14年5月に経済産業省と環境省から共同で承認された。

市内に18ha程度の「エコタウン産業団地」を設け、現在は7つの事業（各事業者）を行っている。各事業と概要は次のとおりである。

1. ハイブリッド型プラスチックリサイクル事業

- ・廃プラスチックのマテリアルリサイクル
- ・廃プラスチックの油化

2. 木質系廃棄物リサイクル事業

- ・木質系廃棄物の炭化处理

3. 生ごみ及び剪定枝リサイクル事業

- ・生ごみのメタン発酵処理
- ・剪定枝の堆肥化

4. 自動車リサイクル事業

- ・自動車を解体し、部品をリユース
- ・シュレッダーレス化による自動車リサイクル

5. 難処理繊維・混合廃プラスチックリサイクル事業及び廃合成ゴムリサイクル事業

- ・繊維廃棄物や廃プラスチックの固形燃料化
- ・廃タイヤ等をチップ化处理
- ・カラーゴムチップや燃料用ゴムチップの製造

6. 廃食用油リサイクル事業

- ・廃食用油をディーゼルエンジン燃料化

7. 廃棄物エネルギーセンター事業

- ・廃棄物焼却による熱エネルギーを利用した発電

各事業施設での廃棄物の処理方法やリサイクル製品の用途などは様々であり、それぞれの事業者の取り組みが把握でき有意義な視察であった。

山田 貴弘 議員

富山県北西部の市で富山県第2の都市でもあり、県西部の中心都市である。総人口174,477人(2016年9月末)、面積209.57km<sup>2</sup>です。東海北陸自動車道と能越自動車道が整備、新しい交通軸には北陸新幹線が開業(平成27年3月)、また、状木富山港の総合的拠点港の選定などを機に、飛越能地域の玄関口、環日本海沿岸地域における交通拠点都市である。

平成26年3月に高岡駅周辺整備事業が完成し、この事業に合わせ高岡ステーションビル及び高岡駅地下街がリニューアルされたことにより、高岡駅改札口から高岡ステーションビルやウイング・ウイング高岡へ人口デッキを通行する人の流れがあります。

えき近夕市についてはJR高岡駅南北自由通路「万葉ロード」において、周辺住民の消費者ニーズに応え、中心市街地の賑わい創出と地産地消の推進を図るため、野菜や果物等を週2回販売している。

朝市でない夕市であること、また自由な参加方法、利便性の高い場所である点が魅力的である。近隣地域の高齢者にも発信し、発展を望んでいる。高岡駅近くの買物難民と言われる住民と農家等との接点を大事にした取り組みで、単なる農産物の売上を超える効果を生み出しているよう目指している。

高岡市は、平成27年3月29日以降、認定された基本計画に基づき「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」を目指して各事業を実施、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高めるとともに、中心商店街の魅力向上を図り、中心市街地の賑わい創出、交流人口の拡大を図っている。

(中心市街地及び観光地で店舗等の新規開業や出店を可能とする店舗の改修、所得を行う大家等に対し市が助成を行っている。)

湯川 洋治 議員

環境問題が重視されている中、全国の中核都市として2番目、全国では16番目に経済産業省、環境省から承認された富山市エコタウン事業の視察をしました。教育民生の委員としてゴミ問題に取り組んでおりどのようにしてこの事業が立ち上がり現在までどのような対策を講じてきたか興味があり説明を受けた7か所の施設の中で2か所視察しました。難処理繊維及び混合廃プラスチックリサイクル施設では、リサイクルが困難で従来焼却処分されていた廃棄物を原料として固形燃料を製造し、廃棄物の減量と温暖化に貢献しており、また生ごみ及び剪定枝のリサイクル施設では食品廃棄物をバイオガス化技術でメタンを醗酵させバイオガスにより発電し電気エネルギーとして利用することでした。

大変素晴らしい事業ですが、これらの事業は市議会からエコタウン事業の導入について行政に提案されたとのことで、施設の近隣は工場や民家があり、建設までには、地元との調整など紆余曲折があったと思われます。議会が提案して事業が成功し環境モデル都市となったことにこれからのまちづくりに参考となりました。

前田 せつよ 議員

高岡市では、高岡駅周辺の住民要望に答えるための施策展開が、地産地消の推進を図ることにつながり10年が経過していました。

平成17年12月から翌年7月までの施行期間は、「えき近夕市」と名づけられ高岡駅前地下街で地元の農園、豆腐店などが出店を開始。翌年には定常的な開催となり、その翌年平成19年7月からは、場所を高岡ステーションビル地階に移すとともに「デパチカタ市」とし更にPRも行い、2年後は、事業主体の見直しと移管で磐石な体制が整っていきました。

市のバックアップは、出店者の要望をその都度最大限に取り入れた事例に感嘆しました。そして行政と住民がより深い関係になったことが現場視察で実感しました。

平成24年1月の高岡駅ステーションビルの改築に伴って、開催場所を駅の南北に延びる自由通路「万葉ロード」に移転し現在に至っています。

高岡市は駅周辺の賑わいを創出することを目的に手がけた事業であり、ハード面とソフト面の絶妙なバランスがこの10年のあゆみを発展させ、それは利用者の声を聞き出店者との細かな連携が図られながら育ててきた施策であることを具体的に学ばせていただきました。

石田 史行 議員

富山市のエコタウン事業を視察。エコタウン事業とは「ゼロエミッション構想」を基軸に、地域の振興を図りながら、環境と調和したまちづくりを推進する事業である。エコタウン制度は国が平成9年度に創設し、自治体が地域の特性に応じた計画を策定し、国の承認を受けて様々な支援を受けることができる。北陸では初、全国では16番目に平成14年5月に国から事業承認を受けている。市内に約18haの「エコタウン産業団地」を設け、資源環境施設の拠点とし、7ヶ所のリサイクル施設を集約しており、今回は2施設を視察した。

特に、生ごみ及び剪定枝のリサイクル施設ではスーパーや食品工場から発生する食品廃棄物をメタン発酵させ、発生したバイオガスを使って発電し電気として利用している。またメタン発酵の過程で生じる廃液を剪定枝などの堆肥化に活用し、堆肥を地元農業法人などで利用している。

担当者の説明によれば、食品リサイクル法に対応したバイオガス化施設導入のモ

デルケースとして、全国への普及効果が期待されているという。開成町単独でこういった施設を導入することは難しいので、周辺の町々と協力して広域的に取り組むことができないかと感じた。ただ、施設周辺の臭いがかかなりきつかった。質疑の時間がなかったので定かではないが、住宅街が近くにあるので周辺住民からのクレーム等がないのか気にはなった。

#### 吉田 敏郎議員

富山県高岡市へ中心市街地賑わい創出開業等支援事業について視察した。中心市街地活性化基本計画で定める商店街において、主に昼間営業を行う店舗、オフィス、生鮮3品取扱店舗等の新規開業者や出店を可能とする店舗の改修、取得等を行う大家等に対し市が助成を行うものである。①出店者への支援として改装費補助2分の1（上限100万円）と家賃補助（上限10万円/月）を1年間。②生鮮3品取扱店舗出店者へは改装費補助2分の1（上限150万）\*条件により上限1,000万円と家賃補助を2年間、③大家、自己所有店舗による出店者へは改修費補助2分の1（上限100万円）と店舗取得費・建設費補助：上限200万円等、中心市街地に特化した手厚い開業支援制度を平成20年4月より開始した。

周辺住民の消費者ニーズに応え、中心市街地における地産地消の推進、賑わい創出を図るため、野菜、果物、花、お菓子、惣菜などを販売する「えき近夕市」を週2回駅通路の「万葉ロード」で開催。販売時刻前には多数の人が並び、早い時間に売り切れる繁盛振りである。高岡市独自の支援制度を設け市街地の活性化を図っていることを参考にし、開成町の活性化につながるよう議会・議員活動に活かしていきたい。

#### 下山 千津子 議員

北陸新幹線に乗り飛越能の玄関口である新高岡ステーションに降りると冷たい東風が迎えてくれた。総務経済常任委員会は「水・みどり・人 光り輝く躍動のまち 高岡」をキャッチフレーズにしている富山県高岡市が中心市街地への出店に関する支援策の1つに周辺住民の消費者ニーズに応え、地産地消の推進、賑わい創出を図る為、野菜、果物、花、お菓子、惣菜などを販売する「えき近夕市」に現地視察を行った。2時間半余りの説明、質問後、開催場所である高岡駅南北自由通路「万葉ロード」に向かい驚いた。改札口近くの通路で僅か8m程の範囲の中、3～4店舗が野菜や惣菜等を販売され開始から30分経過で残り僅かでした。自分で作った品物を自分で売られているので説得力があり思わず沢山買い込んでしまった。毎回5万円程を売り上げるそうです。沢山ヒントを貰いました。

和田 繁雄 議員

富山県は40数年ぶりの訪問でした。高岡市、富山市の発展ぶりにまず驚きました。中国を始めとするアジアの急成長に符号するかのような両市の現在の発展の状況とそれに甘んずることなく未来に向けた都市づくりへの強い意志を感じ、停滞するわが地域の現状に改めて危機意識を高めさせられました。日本を日本海側から見る地図を目にした時は少なからずショックを受けました。日本の中心は今や、太平洋側ではなく日本海側だよと誇示しているかのようなようでした。住む人の意識調査でも住みやすい町のトップに石川、富山、鳥取の各市、町が連なっていることを改めて納得させられる思いです。今回は行政、議会関係者のお話を伺うことはできませんでしたが根底に流れる都市計画の意図は街並みを見て感じ取ることができました。歴史と、現代がそれを取り巻く風景と見事に調和しています。

市民生活のすべてに関わって未来をみんなで作って行くんだと言う政治、経済、市民のリーダーの方々の固い決意は十分伝わりました。我々が学ぶべきものの宝庫です。今後とも当地域の都市づくりの原点を学び、開成町、県西部の発展に資するために何をすべきか考えていきたいと考えます。

井上 三史 議員

高岡市は平成26年3月に高岡駅周辺整備事業が完成し、高岡駅ビル及び地下街がリニューアルされたことにより人の流れが格段に増加していたという。しかし、平成27年3月に北陸新幹線が高岡駅から南へ約1.5キロメートル離れた分離駅で開業したことにより賑わいはそちらに移ってしまった。

そこで、元の賑わいを取り戻す目的に、中心市街地及び観光地で店舗等を開業する方に店舗取得費・改装費の5分の1（限度額200万円）を補助する政策を設けた。この策は空き店舗解消に役立っているという。

また、中心市街地の賑わい創出と農産物の地産地消推進を図るためにJR高岡駅南北自由通路「万葉ロード」において“えき近夕市”への参加を呼び掛けている。まだ始まったばかりの事業であるが今後の発展が期待されている。現在の農業商業を支える政策と新たな開業を志す人への手厚い支援策は大いに参考になる策であると思った。

視察した時間帯は昼時であったが、開成町の10倍の人口17万の市にしては駅南北自由通路「万葉ロード」を通る人の数や駅ビルへ来る客の数が少ないと思った。しかし駅ビル、地下街を含め周辺の建物はとても立派でしっかりとした都市計画に基づいた街づくりであると感じた。

星野 洋一 議員

#### 富山県エコタウン事業について

エコタウン事業とはある産業から出る廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、廃棄物をゼロにすることを目指し、地域の振興を図りながら環境と調和したまちづくりを推進する事業である。視察した「生ごみ及び剪定枝のリサイクル施設」は食品廃棄物でバイオガスを作り利用し、また剪定枝等はバイオガス回収後の発酵廃液を剪定枝などの堆肥化に利用し、製造された堆肥を地元の農業法人や造園業界などで有効利用することによって、リサイクル事業が成立する事業である。開成町でも（剪定枝年間約 258.66 t）同様の事業を運営しているが、堆肥等の利活用の方法の必要性を感じた。また生ごみの減量を考える中、生ごみ処理の大きな施設を持たない開成町には、キエーロの普及をもっと進めるべきだと思う。ごみ減量に対してどの様に取り組むのかを考えさせられる視察であった。

菊川 敬人 議員

#### 1. 中心市街地賑わい創出開業等支援事業

富山県高岡市が取り組む、開業支援制度は、中心市街地活性化計画に掲げた、中心商店街の空き店舗の減少を図るため補助制度を設け、開業支援を行っている。平成19年に国の認可を受け開始されたものである。昼間営業を行う店舗・オフィス等の出店・改装、大家に対して助成を行っている。

#### 2. えき近夕市の取り組み

周辺住民のニーズに応え、地産地消の推進と駅周辺の賑わいを創出する目的で、平成17年に高岡駅地下街で試行的に実施をされた。その後平成24年ステーションビルの改築に伴い、駅の通路を活用して10店舗が野菜・果物・お菓子などを週2回（火・金14時～16時）販売している。

市は、実行委員会形式（えき近夕市実行委員会）で全ての店舗が会員となり実施されている。また、月2回開催される朝市では、約50店舗が出店して賑わっているそうである。

年間を通じ高齢者が作った作物を買ってもらい、地元の人が作ったものを食べる。このことで高齢者の生きがいとなっているようだ。

市を継続するポイントとして、地元商工会とは別に実施していた。出店者の中に中心的になる人材がいるようである。

以上の視察で感じ取れることは、中心商店街に空き店舗を作らないため支援を行っていること。中心部に特化しているが、出店を志す者にとっては力強

く感じられるように感じた。

また、夕市については、高齢者が率先して、自分で作ったものをお客に対し会話をしながら買ってもらう。自らがそうした販売の場所作りを行い実践する楽しみが見受けられた。

### 3. 富山市エコタウン

富山市が進めるエコタウンは、平成14年5月にエコタウンプランの承認を受け、市内に18ha程度の「エコタウン産業団地」を設けている。一見廃棄物を取り扱う場所とはかけ離れた、市の中心地から近い住宅地と混在した場所であった。

ここは、地域内での循環を優先した取り組みを推進し、市民の活動を活かした、人と換気用に優しい都市の実現を目指している。そして、素材の段階的再利用と廃棄物エネルギーの有効活用の推進を図っている。事業概要は、廃プラスチックリサイクルとして、マテリアルリサイクル及び廃プラの油化。

生ゴミ及び剪定枝リサイクルとして、メタン発酵処理、堆肥化。

難処理繊維及び廃合成ゴムリサイクルとして、固形燃料化・燃料用ゴムチップ化。

その他、全事業が展開されていて、食料クズ、木質系クズ、プラスチック系クズ等を再利用するための事業であった。